

病害虫発生予察特殊報第2号

平成11年5月27日
三重県病害虫防除所

クロフタモンマダラメイガはカキ、クリ及びりんごを加害するとされているが、本県において国内でも例のないナシでの加害が確認されたので、特殊報として発表する。

1、病害虫名 クロフタモンマダラメイガ
Euzophera batangensis Caradja

2、発生確認作物名 ナシ（露地）

3、発生確認地域 久居市新家町

4、発生確認の経過

- （1）平成11年4月頃に、久居市のナシ園（幸水）1ほ場で、幹や枝部の粗皮下で食害痕の発生や虫糞が生産者により確認された。
- （2）平成11年4月30日に農業技術センターや農業改良普及センターとともに発生ほ場で粗皮を剥がして調査した結果、クロフタモンマダラメイガによるものであることが判明した。
- （3）本種発生園の近隣園では発生は確認されていない。

5、本種の特徴

（1）被害

本種の幼虫が幹や枝の被皮下に食い入り、形成層部を広く食い荒らす。
また被害は枝の分岐部や剪定後ゆ合部など粗皮の荒い部分に多い。特に幹や太枝から出た基部など組織が柔らかい部分や地ぎわに近い枝幹に被害が多い傾向がある。

（2）生態

卵は枝幹の被害部を中心に産み付けられ、幼虫は形成層部を食害する。越冬は老熟した幼虫態で、加害部の粗皮下に薄いまゆをつくりその中で越冬する。

越冬幼虫は3月下旬頃から蛹化し、約2週間で羽化する。成虫は通常4月上旬～5月上旬、6月中下旬、7月上下旬、8月中旬～9月中旬の年4回発生する。

（3）形態

成虫は開長13～15mm、紫褐色で灰褐色の波状横帯が2本ある。

幼虫は老熟すると体長が約13mmとなり、胴部は淡灰色、頭部は光沢ある茶褐色を呈する。